

 **G7サミット19日開幕**


広島から築く平和

これはほくらの叫びです
これは私たちの祈りです
世界に平和をきずくための

広島市の平和記念公園にある原爆の子の像は、2歳の時に被爆し、10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんの級友たちが建立へ声を上げ、国内外から共感と寄付金を集

めて1958年に完成しました。碑文にあるように、原爆の惨禍を経た平和の尊さ、未来への希望を訴え、世界中から折り鶴が寄せられています。19く21日の先進7カ国首脳会議（G7サミット）に合わせ、中国新聞社は「保存版」特集を作りました。伝えたいのは45年8月6日の朝、米軍が落とした1発の原爆で壊滅した被爆前の営みです。市民の力で復興し、潤いに満ちた街並みです。そして、日本が国内外の人たちに苦しみを与えた過去を顧み、戦争も核兵器もない世界を求めるヒロシマです。子どもたちが折り鶴に込めた思いを広げ、平和を築きましょう。

中国新聞

23 あの日のヒロシマ

4 原爆ドームを訪ねて

5 サミットの意義

67 Smile for Peace Project

8 世界の広島人

9 宮島大解剖

10 お好み焼きの魅力

11 ロケ地ガイド

12 爆心地の街並み復元図

中国新聞の
広島サミットポータルサイト



世界中から集まった折り鶴に囲まれる原爆の子の像＝360度カメラ使用（撮影・高橋洋史）

商店、映画館、寺院…。緑豊かな平和記念公園（広島市中区）が広がる元安川と本川の間、三角州上流部はかつて、店舗や住居がひしめく「中島地区」だった。米軍が投下した原爆の爆心地に近く、猛烈な爆風と熱線で街はほとんど姿をとどめぬまでに壊され、焼き尽くされた。一部住民の疎開先などで焼失を免れた被爆前の街角と暮らしの写真を焼け跡の写真と比べると、戦争、核使用がもたらす悲惨な現実が浮かび上がる。

（編集委員・水川恭輔）

街と営み 一瞬で

爆心地近くの中島地区 繁華街店舗や住居ひしめく

「広島原爆被災誌」（1971年）によると、中島地区には被爆前、推計で1330世帯4370人が住んでいた。今の平和記念公園と南側のエリアに中島本町、天神町、北組、同南組、材木町、木挽町、元柳町、中島新町の旧7町内会があった。

最も北の中島本町は、幕末から大正初期（10年代）にかけて市内を代表する繁華街としてにぎわった。最盛期を過ぎて多くの店が営業。29年にはメインの中島本通りに鉄筋3階建ての大正屋敷服店が開業した。南北に走る天神町筋、材木町筋にも店が軒を連ね、寺院は子どもの遊び場にもなった。

だが、中島地区の大部分は爆心地から半径500メートル以内の地下60センチほどに壊滅した。この範囲の被爆直後の位置。死傷率は100%に近く、多くの住民たちの命は街もとろけ、戦後復興の象徴となった平和記念公園は市が50年に着工し、5年後に完成。今なお園内の地下60センチほどに壊滅した街の遺構が眠る。戦時中に燃料会館となった旧大正屋敷服店の建物は例外的に被爆時の倒壊を免れ、復元工事も施されて「レストハウス」として来園者を迎えている。

本紙は2019年に始めた企画「ヒロシマの空白」のウェブサイトで、被爆前・被爆後の広島市内の写真約1300枚を紹介している。写真はGoogleマップ上に配置され、被爆前の街並みと、同じエリアの被爆後の惨状を比べられる。



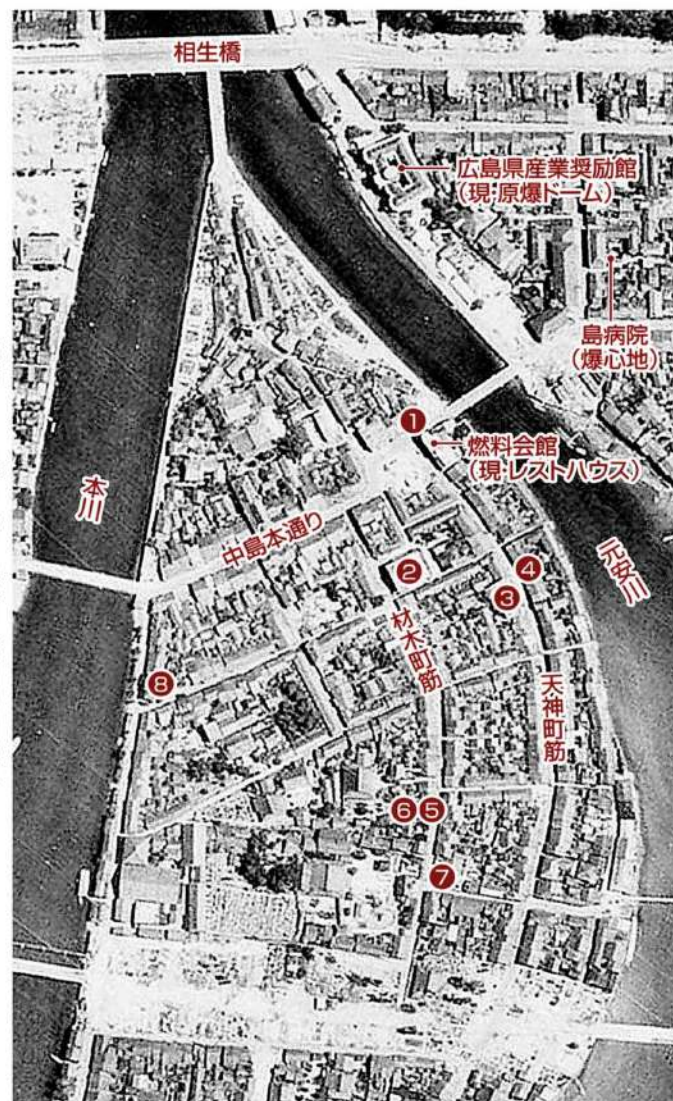
① 中島本通りの大正屋敷服店前から西を望む。右側に食堂が見え、奥に玩具店も写る。39年ごろ撮影（奥野勝彦さん所蔵、広島市文化振興課提供）



② 今の原爆慰霊碑の北側辺りにあった映画館「昭恵シネマ」（元「世界館」）。看板にあるのは、オーストリア映画「たそがれの維納」（34年）とドイツ映画「チャルダス姫」＝同（広島市公文書館所蔵）



③ 元安川沿いの天神町筋。履物の沖田商店前で、ちんどん屋が足袋を宣伝している。41年ごろ撮影（三田茂さん提供）



米軍が1945年7月25日に撮影した三角州の中島地区



⑥ 今中商会の奥の自宅部分。同様に奥行き長い店舗兼住宅が通りに立ち並んでいた（今中さん提供）



④ 天神町筋の米田京染店。店主だった米田吉清さんたち家族4人が被爆死し、吉清さんは店の焼け跡から遺骨が見つかった。30年ごろ撮影（米田清荘さん提供）



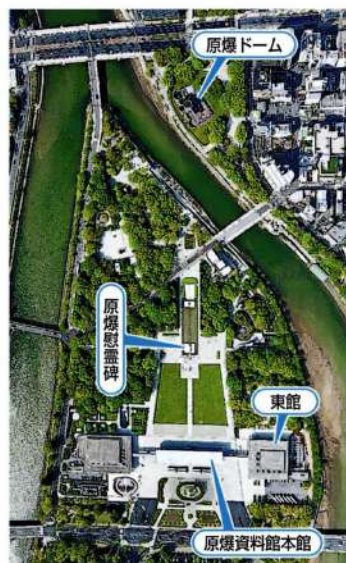
⑤ 材木町筋で三輪車に乗る今中圭介さんたち。奥の建物は貿易商の父が営んでいた「今中商会」と自宅を兼ね、今の原爆資料館本館敷地の一角にあった。37、40年ごろ撮影（今中さん提供）



⑧ 本川沿いの元柳町。「チヨコレート」の看板が掛かる中央の洋風建築は27年まで芸備銀行（現広島銀行）の本店で、被爆時は森永食糧工業（現森永製菓）広島支店だった（森永製菓資料室提供）



米軍が原爆投下5日後の45年8月11日に撮影した被爆後の中島地区



平和記念公園



⑦ 材木町の慶蔵院の境内で写真に納まる大西安子さん（左）と近所の住民。奥は向かいの誓願寺の山門。町内に家族と住んでいた大西さんは学徒動員先で被爆して一命を取り留めたが、両親と妹2人が被爆死した。38年ごろ撮影（大西さん提供）

原爆で犠牲になった動員学徒が被爆した日に身に着けていた学生服やズボンを一面に並べた集合展示



広島原爆の犠牲者は1945年8月6日から12月末までだけで14万人（誤差±1万人）に上ったと推計され、その後も放射線による健康被害が続いた。原爆資料館（広島市中区）は犠牲者一人一人の生きた証しである遺品を展示の中心に据え、奪われた命の重み、家族や級友の尽きぬ思いを伝えている。核兵器が使われたら、どうなるのか。展示されている遺品の「声なき声」を紹介する。

(編集委員・水川恭輔)

10代 絶たれた人生

原爆資料館

原爆資料館は被爆10年後の1955年、平和記念公園内に開館した。広島市が設置し、現在は外郭団体の広島平和文化センターが運営。遺品をはじめとする実物資料2万点以上を収蔵し、本館と東館の二つの建物に展示スペースがある。

本館では、遺品や写真で被爆の惨禍を伝えている。梅北トミ子さんの日記と折免滋さんの弁当箱は、遺影や生前の言葉とともに遺品を紹介する「魂の叫び」コーナーに展示。同じ本館内には、犠牲になった中学生や女学生が被爆した日に身に着けていた学生服、ズボンなども一面に並べられている。

東館では、核開発と拡散の歴史や広島戦後復興の歩みを解説している。被爆者で元館長の原田浩さん(88)は「首脳は一つ一つの遺品や被爆者の体験を自分事として受け止めてほしい。その上でどう政治に生かすかわかれる」と訴える。過去を学んだ来館者に、未来に向けた行動が期待されている。

遺品や遺影 展示の中心に

1945年8月5日、広島県立広島第一高等女学校(県女・現皆実高)1年だった梅北トミ子さん＝当時(13)＝はいつものように日記をつけた。「日曜日／天候晴／起床午前六時二分／学習時間四時三分」。2歳の妹を風呂に入れ、家族のために料理もした休日だった。

「今日美智子を私が風呂に入れたので、喜んでみた(略)夕飯は、うどんだった。私が、おしるに、味をつけて、こしらへたので、お父さんも、お母さんも、おいしいおいしいと言はれた」

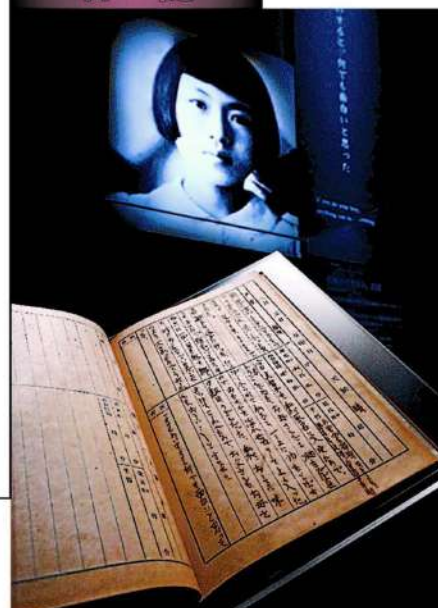
「一生けんめいすると、何でも面白いと思った」

翌6日朝、梅北さんは吉島本町

(現中区)の自宅から小網町(同一帯で防火帯を造る建物疎開作業に出た。爆心地から約800㍍。背後から熱線にさらされ、運ばれた軍需工場で8日に息を引き取った。作業に出た県女1年223人は誰も助からなかった。

「妹のお守りが上手になりたい」(4月13日)「妹のお手玉をこしらへた」(6月26日)…。県女に入学した45年4月6日から毎日記され、家族への愛情があふれる日記は、8月5日が最後のページになった。人間の暮らしが、若者たちの未来が、これほど理不尽に断ち切られてよいのか。8月6日からの空白のページが、私たちに問うている。

日記



梅北トミ子さんの遺影(奥)と共に展示されている遺品の日記。右側のページに1945年8月5日を記録して途絶え、左側には空欄のままになっている。妹の美智子さん寄贈

佐々木禎子さんが被爆から10年後に白血病で亡くなる前に折った折り鶴。父の繁夫さん、兄の雅弘さん寄贈



折り鶴

色とりどりの折り鶴の輪郭を展示用のライトがくっきりと浮かび上がらせる。小さい物で1、2センチほど。平和記念公園の「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんが白血病からの回復を願って折った。葉や菓子の包み紙を使い、病状が悪化して指先が動きにくくなっても針を使って小さな鶴を折り続けた。

禎子さんは2歳のとき、爆心地から約1.6㍍の自宅で被爆。小学6年だった1955年2月、白血病のため広島赤十字病院(現中区の

広島赤十字・原爆病院)に入院した。鶴は同年夏に折り始め、ひと月たらずで千羽を超えたという。しかし、願いかなわず、10月に12歳で亡くなった。

遺品の折り鶴は、戦争が終わった後も、子どもの平和な日常をむしろ核兵器の非人道性を如実に物語る。被爆者の白血病の発生率は被爆10年ごろにかけてピークを迎え、被爆していない人の4～5倍、小児に限れば数十倍に達した。原爆放射線がDNAを傷つけたことが引き金だと考えられている。

弁当箱



折免滋さん

米・麦・大豆の混ぜごはん、千切りにしたジャガイモの油炒め。広島市中心部の動員先に向かうわが子に母が持たせたアルミの弁当箱の中身は、焼け焦げて真っ黒に炭化している。

その日、弁当箱を携えて家を出たのは、当時13歳で広島二中(現観音高)1年の折免滋さん。建物疎開作業のため爆心地から約500㍍の本川東岸に集まっていた。中心部を焼き尽くした原爆投下後、郊外から捜しに入った母シゲ子さんが作業現場近くでうつぶ



せの遺体を見つけた。弁当箱は腹の下にあった。折免さんは召集された父に代わって母のために山や竹やぶに畑を作り、弁当のおかずはそこで育てた作物を使っていたという。シゲコさんは、1996年に88歳で亡くなる7年前に残した手記で悲しみを吐露している。「思い出すまい考えまいとすればする程、下腹から熱いものが込み上げてきて涙を流し今日に至りま



佐々木禎子さん

した」平和記念公園(中区)西側の本川沿いにある「中慰霊碑」には、1年生333人の名前が刻まれている。折免さんをはじめ、この川岸に作業に出ていた1年生は全滅した。

無言の叫び 今もなお



360度カメラ使用、撮影・高橋洋史

①古代ギリシャ・イオニア式の柱



広島市公文書館提供

2本の柱に「森永ココアホール」の垂れ幕がかかる。1921年4月に広島県立商品陳列所で開かれた「全国菓子館大品評会」。当時の広島市の人口約16万人に迫る約14万人が来場したという。21年4月8日付本紙朝刊は、森永製菓がココア5万杯を振る舞うと伝えている。

建物中央の3階部分にあたる。れんがが散乱する地上から天を仰ぐと、古代ギリシャ建築のイオニア式の2本の柱を確認できる。その向こうには、ドーム屋根の鉄骨。完全な円ではなく楕円である。

レンズ越しに知る 被爆前と現在



古河秀治さん提供



360度カメラ使用、撮影・高橋洋史



被爆地ヒロシマの象徴、原爆ドーム（広島市中区）は1915年に「広島県物産陳列館」として建てられた。広島が壊滅した78年前のあの日は「広島県産業奨励館」だった。戦後いつしか呼称は「原爆ドーム」に。その姿と名は、時代を超えて核兵器のもたらす惨禍を世界に訴え続ける。（湯浅梨奈）



広島市公文書館提供

一部鉄骨入りれんが造り3階建てで中央部分が5階建ての西洋建築は、チェコの建築家ヤン・レツル（1880～1969年）の設計だ。物産展や美術展の会場としてにぎわい、19年には第1次世界大戦で日本軍の捕虜となり広島市沖の似島に収容されたドイツ人がハムサンドやソーセージを展覧会に出品。菓子職人カール・ユーハイムは日本で初めてパウムクーヘンを焼いたという。

原爆ドームは常に時代を映す。太平洋戦争の戦況が厳しさを増すと、館内も戦時体制の影が濃くなる。主に官公庁や統制組合の事務所に使われた。

45年8月6日、爆心地から1600分の1の県産業奨励館は壊滅。館内にいた約30人が即死したというが、被害の詳細は分かっていない。爆風をほぼ垂直に受けたことで、建物の一部は倒壊を免れた。

その痛ましい姿から、戦後は「原爆を思い出すのがつらい」と撤去を求める声もあった。転機は、被爆から15年後に白血病で亡くなった高校生の榊山ヒロ子さんが残した日記だ。「あの

痛ましい産業奨励館だけが、いつまでも恐るべき原爆を世に訴えてくれるだろう。胸を打たれた小中高生と市民が署名運動に立ち上がり、保存へとつながった。96年に、世界遺産に登録された。

◇ 猛烈な爆風、熱線、放射線と長年にわたる風雨に耐えてきた「原爆ドーム」。失われた日常を伝える写真が、わずかに現存している。今、同じ場所、同じアングルに立てば何が見えるだろうか。市の許可を得て敷地に足を踏み入れ、8月まで伸びる一脚に装着した360度カメラも使って遺構を撮影した。

②北側2階の事務所

太平洋戦争の開戦を挟む1941～42年ごろ、北側2階に事務所があった「日本貿易振興会社広島支店」に勤めていた古河秀雄さん（2014年に93歳で死去）が撮影した写真。三連窓の向こう側に、相生橋がうつろと写り込んでいる。古河さんは原爆投下時は召集されて県外にいたが、妹を捜して入市被爆した。妹は被爆死した。今、事務所だった場所は床が抜け、れんが壁がむき出しとなっている。補強用の鉄骨越しに見えるのは、やはり相生橋。米軍が原爆投下目標とした十字の橋である。

③庭園の噴水



古河秀治さん提供



撮影・浜岡学

建物の南側にあつた洋式庭園の噴水。スーツ姿の男性が腰かけ笑みをたたえる。1941～42年ごろ、古河秀雄さんが撮影した。獅子頭のような彫刻の吐水口が見える。この一角は特に市民にとって憩いの場だったようだ。

同じ角度から捉えた現在の噴水跡に、彫刻はない。被爆前は計12基あったとみられており、一部は原爆資料館が所蔵している。

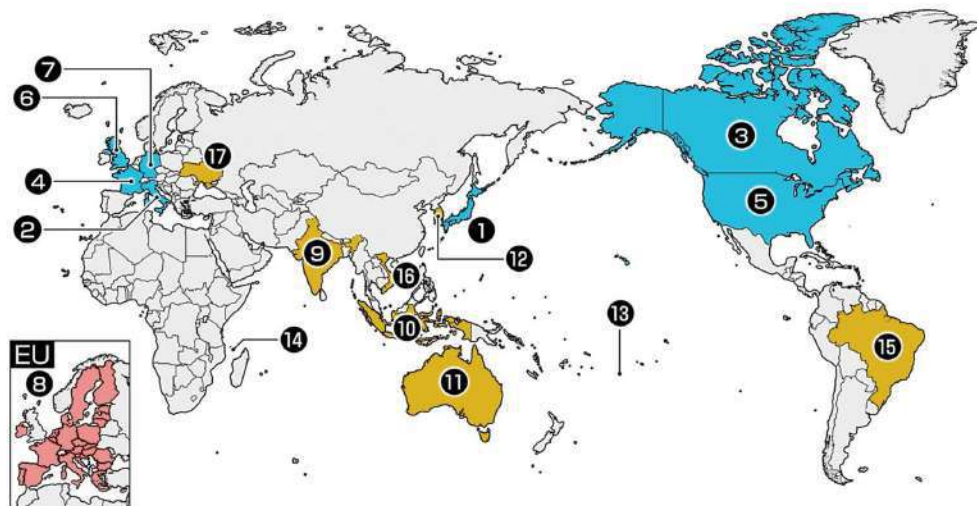
360度カメラで撮影した原爆ドーム内部のパノラマ画像を、中国新聞デジタルで公開しています。自らの操作で画像を自由に動かすことができます。



原爆ドームの歩み

- 1915年4月 ▶ 広島県物産陳列館が完成
- 21年1月 ▶ 県立商品陳列所と改称
- 33年11月 ▶ 県産業奨励館と改称
- 45年8月 ▶ 原爆投下
- 53年11月 ▶ 県が広島市にドームを譲与
- 60年8月 ▶ 広島折鶴の会が原爆ドーム保存のための署名と募金活動を開始
- 66年7月 ▶ 市議会が「原爆ドーム保存要望」を全会一致で決議
- 67年4月 ▶ 市が第1回保存工事。8月に完工
- 89年10月 ▶ 第2回保存工事着工
- 96年12月 ▶ 世界遺産登録が決定
- 2002年10月 ▶ 第3回保存工事着工
- 15年12月 ▶ 第4回保存工事着工。初の耐震補強
- 20年9月 ▶ 第5回保存工事が着工。21年3月完工

広島サミットの参加国と首脳・国際機関



G 7



招待国



国際機関

国連、国際エネルギー機関(IEA)、国際通貨基金(IMF)、経済協力開発機構(OECD)、世界銀行、世界保健機関(WHO)、世界貿易機関(WTO)

先進7カ国首脳会議(G7サミット)には、半世紀近い歴史がある。経済協力がその発端だったが、扱う内容を政治や安全保障分野へ拡大。初の被爆地開催は核軍縮が主要議題の一つになる。核兵器廃絶の機運を高められるかが焦点だ。

始まりは、世界が大不況に陥っていた1975年。経済を立て直すとして、フランスのシスカール・デスタン大統領(当時)が初会合を提案。米国、英国、ドイツ、西ドイツ、日本、イタリアの首脳がパリ郊外に集まった。76年にはカナダが参加。1年ごとに議長国を担い、その時々の地球規模の課題についてトップ会談をしてきた。欧州連合(EU)も、前身の欧州共同体(EC)だった77年から加わっている。

西側と対立していた旧ソ連が91年に崩壊後、G7は97年、ロシアを正式に迎えた。だが2014年にロシアがウクライナ南部のクリミア半島を強制編入すると反発。ロシアを締め出した。

そのロシアがウクライナに侵攻したのを受け、今回の議長岸田文雄首相は被爆地を舞台に選んだ。ロシアが核使用を示唆する中、「核兵器のない世界を目指す国際的機運を再び盛り上げる大きな転換点にしたい」と意気込む。

ただ、G7は米英仏の核保有3カ国と、米国の核に頼る日本など4カ国からなる。被爆地の望む成果を挙げられるか最

被爆地が世界に問う

1975年 仏が初会合提案
反核の機運 高められるか

後まで見通せない。日本被爆協の賛助代表委員(81)写真Ⅱは「広島に来るからには核の悲惨さを直視し、うわべだけの言葉でなく、本腰で廃絶に取り組んでほしい」と訴える。

首相はエネルギー・食料安全保障、気候変動、保健なども主要議題に挙げ、G7以外の首脳を交えた「拡大会合」も開く。招待国はインド、インドネシア、オーストラリア、韓国、クック諸島、コモロ、ブラジル、ベトナムの8カ国と、オンライン参加のウクライナだ。

「グローバルサウス」と呼ばれる新興国や途上国は、エネルギーなどを頼るロシアに対して中立的な立場をとる国が多い。これらの代表国を拡大会合に招くことでG7側に引き寄せたい狙いがある。

(編集委員・田中美千子)



岡昌鉄也

中国新聞社・代表取締役社長



30年ほど前、小学生の息子が高熱を出した。腹部に紫斑が出ていた。医師の見立てに驚愕した。「白血病の疑いがある」。脳裏をよぎったのが「原爆」の2文字。白血病は放射線後障害の象徴的な疾患である。私も妻も被爆2世、息子は被爆3世である。

被爆の遺伝的影響は、今のところ確認されていない。検査の結果、白血病ではなかったが、被爆者とその子孫は体に変調をきたすと被爆を疑ってしまう。妄想、思い込みと片付けられるのはたやすい。しかし、この街

ヒロシマに触れ行動を

は被爆の底知れぬ恐怖を深く刻み込み過ぎた。

中国新聞社は1945年8月6日の原爆で、社員3分の1に当たる114人の犠牲者を出した。社屋、輸送機は焼け再起不能とも言われた。そんな絶望的な状況の中でも、生き残った社員たちは口伝を組織。焼け跡を巡り、救援・救護情報を肉声で伝えた。3日後には代行印刷により新聞発行を再開、1カ月後には自力印刷での発行にこぎつける。以来78年、被爆地の新聞社として、人類初の戦争における核被害と向き合ってきた。

「原爆は威力として知られたか。人間の悲惨として知られたか」。核軍拡競争に拍車がかかっていた60年代、本紙の金井利博論説委員の問いかけである。3月に亡くなったノーベル文学賞作家・大江健三郎氏の「ヒロシマ・ノート」にも登場する彼は、威力でしか語れない国際政治の現実を怒っていた。

一瞬にして奪われたあまたの命。その一人一人にかけがえのない人生

があった。そして、今に至るまで後遺症に苦しめられる人々。そんな人間の悲惨にこそ、核兵器の正体が見える。私たちが心掛けるものは今も昔も変わらない。

本紙は世界でも珍しい、平和問題に特化したページを週一回持つ。記者と、ジュニアライターと呼ぶ、将来を担う中高生がチームを組み、被爆証言など核兵器を巡る動きを中心に連載している。しかし、被爆者の平均年齢は84・5歳。貴重な証言を聞く機会は日々細る。

ここから世界へ、ここから未来へ



G7 HIROSHIMA SUMMIT 2023

2023年5月19日(金)～21日(日)

G7サミット(主要国首脳会議)とは、仏、米、英、独、日、伊、加(議長国)の7か国及び欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して、毎年開催される国際会議です。G7サミットでは、自由、民主主義、人権などの基本的価値を共有する7首脳が一つのテーブルを囲みながら、世界経済、地域情勢、様々な地球規模課題について、率直な意見交換を行います。G7サミットの日本での開催は、2023年が7回目となります。

G7広島サミットに関連して広島を訪れる方を歓迎するため、Smile for Peace Project～世界に笑顔を届けよう～として、県内外のたくさんの方々が想いを込めた写真を募集し、6,237枚の写真でモザイクアートを制作しました。2月8日の中国新聞朝刊に掲載したモザイクアートは朝焼けの瀬戸内海の風景と、手に乗せた折り鶴でした。今回は7羽の折り鶴が広島から世界に飛び立とうとしています。2つのモザイクアートを並べると、パノラマの美しい瀬戸内海の風景が完成します。広島の想いを乗せ「ここから世界へ、ここから未来へ」(応募いただいた写真の一部はちゅーピー子どもウェブ「ぶんタッチ」内にも掲載しています。)

主催/広島サミット県民会議 協力/中国新聞社

ちゅーピー子どもウェブ「ぶんタッチ」



二つの被爆地で人生の多くを過ごした森保さん（共同）



森保一さん(54)

サッカー日本代表監督、元サンフレッチェ広島選手・監督

二つの被爆地で人生の多くを過ごした。長崎で育ち、高校卒業後、サッカー選手を志して広島へ。大成し、日本代表監督となったいま、「スボッがでる平和をかみしめたい」と繰り返す。その覚悟を持って臨んだ2022年ワールドカップ（W杯）カタール大会。日本を初の2大会連続ベスト16へ導いた。

Jリーグ・サンフレッチェ広島の前身マツダに入団。無名の選手は守備的MFとして頭角を現し、日本代表へ上り詰めた。引退後、監督としてクラブに戻ると、3度のリーグ制覇を成し遂げた。ホームで試合を行う朝は平和記念公園（広島市中区）を歩いて訪れた。「地域に根差すクラブとして、他とは違う歴史を背負う」。初優勝を果たした際は原爆慰霊碑に赴き、献花した。手腕を買われて代表監督に就いても思いは変わらない。兼任で率いた21年東京五輪。3位決定戦は広島に原爆が投下された8月6日だった。前日会見で「特別な日」と声を震わせ涙した姿は世界に発信された。

W杯カタール大会では優勝経験国のドイツ、スペインを破り、世界に驚きを与えた。日本代表の歴史の中で初めてW杯出場後も継続して指揮を執る。まだ見ぬ景色を目指し、高みに挑む。

広島で育ち、培われ、受け継がれてきた才能は、世界の人々を魅了してきた。その存在で広島と世界をつないでゆかりあるスポーツ、文化人を紹介する。（山成耕太、西村文）

羽ばたいた 郷土の誇り



萩原麻未さん(36)

被爆3世のピアニスト

国際コンクールでの優勝で一躍、人気ピアニストになった。国内外の著名指揮者やオーケストラと協演を重ねるほか、被爆3世のピアニストとして、平和活動や国際貢献にも尽力する。

広島音楽高を卒業後、パリ国立高等音楽院に留学。2010年、スイス・ジュネーブ国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人初の頂点に立った。

13年には南米ベネズエラに赴き、経済的に恵まれない青少年を対象にした音楽教育「エル・システム」によって才能を伸ばした若手演奏家のオーケストラと協演。日本とベネズエラの外交樹立75周年を記念する、同オケの来日ツアーにも出演した。

母方の祖母が被爆者。被爆3世として使命を抱くようになったのは、パリ留学がきっかけだった。「出身地を伝えと、ヒロシマを知らない人は一人もいなかった」

約10年前から、広島で被爆死した女学生・河本明子さんがのこした被爆ピアノを弾く平和活動が続いてきた。被爆75年の20年8月には、河本さんを題材にしたピアノ協奏曲「Akiko's Piano」（藤倉大作曲）を広島交響楽団との協演で世界初演した。

森下洋子さん(74) 舞踊家



世界で活躍する日本人バレリーナの先駆者。舞踏歴70年を超えてなお現役を貫く。

広島市中区生まれの被爆2世。3歳でバレエを始め、1974年にフルガリア・バルナの国際コンクールで日本人初の金賞に輝いた。77年、英ロンドンのエリザベス女王戴冠25周年記念公演で、ルドルフ・ヌレエフと共演。82年には日本人で初めてパリのオペラ座に出演した。

東日本大震災を受け、団長を務める松山バレエ団（東京）は「新『コッペリア』」を翌2012年に発表。主役を踊り、鎮魂と復興への祈りを表現した。

広島への思いは表現と切り離せない。「芸術は人々の平和のためにある。常に平和を祈って向き合う」

岡本綾子さん(72) 女子プロゴルファー



米女子ツアーで黄金女王になり、米国選手に肩車される岡本さん＝1987年（共同）

海外で活躍する女性アスリートのパイオニアである。ゴルフの米女子ツアーで1987年、シーズン4勝を挙げ、米国人以外で初めて賞金女王を獲得した。その名をとどろかせ、「世界のアヤコ」と呼ばれた。

東広島市安芸津町出身。21歳で実業団ソフトボールのエースからゴルフ界に転身した。プロ1年目の75年に国内ツアー初優勝。81年に賞金女王となった。日本女子で初めて本格的に米女子ツアーに参戦し、82年に初優勝。腰痛と闘いながら通算17勝を積み上げた。

2005年、世界ゴルフ殿堂入り。式典のスピーチでは「私が米ツアーで学んだ最も大切なことは、与える精神です」と結んだ。現在は古里で暮らしながら後進の指導にあたる。

三宅一生さん(1938～2022年) デザイナー



「一枚の布」など斬新な概念のもと現代的な衣服を創造。「イッセイミヤケ」ブランドを世界に発信した。

1938年生まれ。少年時代、イサム・ノグチが設計した平和大橋と西平和大橋の欄干デザインに感銘を受けた。多摩美術大在学中に衣服デザインを始め、60年代後半にはパリやニューヨークで修業。88年から手掛けたアフリカのシリーズは国際的な評価を博した。

7歳で被爆。長く口を開きしてきしたが、2009年、米ニューヨーク・タイムズ紙への寄稿で体験を初めて発表。当時のオバマ大統領に広島訪問を要請した。願いは16年に実現。オバマ氏には土産として、三宅さんの事務所がデザインした腕時計が贈られた。



ヒロシマへの思いを胸に、メジャーのマウンドに立つ前田さん（共同）

前田健太さん(35)

米大リーグ ミネソタ・ツインズ、元広島東洋カープ投手

カープのエースはメジャーリーグへと移籍し、現在はツインズに所属する。18年の日米野球ではメジャーの一員として平和記念公園（広島市中区）を訪ね、原爆慰霊碑に花を手向け「広島で試合があることが出場を決定した理由の一つ。この場所が広島にとって大切だということ」を、米国と日本に野球を通して発信したい力を込めた。

大阪・PL学園高校から2007年に広島東洋カープに入団。9シーズン過ごした地で、チームはかつて焦土化した広島市の復興の象徴的な存在だと知った。

16年に米大リーグ・ドジャースへ移籍し、現在はツインズに所属する。18年の日米野球ではメジャーの一員として平和記念公園（広島市中区）を訪ね、原爆慰霊碑に花を手向け「広島で試合があることが出場を決定した理由の一つ。この場所が広島にとって大切だということ」を、米国と日本に野球を通して発信したい力を込めた。

宮島を代表する食の一つに、もみじまんじゅうがある。明治後期に島内の紅葉の名所「紅葉谷公園」のモミジの葉にちなんだ形に作られたものが発祥とされる。カステラ生地にごしあんが入ったものが一般的で、クリームやチーズ、チョコレートなど味のレパートリーも豊富だ。

島内には現在、15の製造販売業者があり、その半数は宮島表参道商店街などでの家族経営。ガラス越しにまんじゅう作りを見学したり、出来たてほかほかを店内で食べたりするのが宮島観光の楽しみ方の一つになっている。お土産の定番としてもお薦めだ。

解剖 お好み焼き

※監修・オタフクソースお好み焼き課の
春名陽介課長

12 青のり

ソースと磯の香りがマッチ

※仕上げにうま味調味料やガーリック
パウダー、こしょう、ごまを振る店も
ある

11 ソース

はけでまんべんなく塗る

10 卵

半熟卵の上に本体をのせる

9 麺

そばやうどん。ゆで麺が
主流

8 ラード

具材の上にラードをのせたら
上下をひっくり返す

7 豚肉

薄切りばら肉を3枚程度

6 だし粉

魚粉や昆布粉で
うまみアップ

5 もやし

安くてボリュームも
栄養も満点

4 ネギ

最後にたっぷりかけても
おいしい

3 天かす

味のアクセントに。
砕いたいか天入りも。

2 キャベツ

芯は細め、柔らかい葉は
太めの千切り

1 生地

水で溶いた薄力粉を
お玉の底で薄く延ばす

広島の味

まあ、食べてみんなさい

広島県民の体はお好み焼きでできている。というのは言い過ぎかもしれないが、戦後の復興期から人々のおなかを満たし、今も「無性に食べたくなる」と愛され続ける。広島のスoulフードお好み焼き。「肉玉そば」と呼ばれる基本形から、先進7カ国首脳会議（G7サミット）にちなんだアレンジ焼きまで丸ごと紹介します。（赤江裕紀）

親子2代「おばちゃん」切り盛り



創業60年「ふじや」

「最初は物珍しくてね。母が焼くのを近所の子が見に来たよ。60年前の開店当初の思い出を語る由利子さん」

お好み焼きをソウルフードに育てたのは「広島のおばちゃん」たちだ。昭和30年代、自宅の一部などに鉄板を置いた店を開く人が相次いだ。広島市西区の「ふじや」もその一つだ。開店60年。昔ながらのおばちゃん焼くお好み焼き屋さんを貫いている。ふじやは1963年、現店主の藤井由利子さん（44）の母ハルエさん（2017年に100歳で死去）が開業した。「母が女手一つで私を育てるため、見よう見まねで始めたんです」と由利さんは振り返る。

定番の「肉玉そば」は当時1枚50円。藤井さんも21歳から店を手伝い、親子2人で切り盛りしてきた。「近所にまだコンビニもなかったのだから。30年くらい前が一番忙しかった。メニューは他に、うどんやラーメン、かき氷もあり、駄菓子も置いていた。労働者から子どもたちまで多くの人でにぎわった。

肉玉そばは現在、1枚750円。元気づけにと20年ほど前から仕上げにガーリックパウダーを振り、最近はキャベツに刻んだタマネギも加える。進化を続けるふじやのお好み焼きだが、変わらないのはキャベツの甘みを生かした味わい。「変わったことはしてないんです。母と同じように焼くだけ。でもこの味のファンは多いんです」と誇る。

海外旅行とおしゃべりが大好きという由利子さん。外出時には英語のシヨップカードを携え、出会った外国人を店に誘う。新顔客には国内外問わず「どこから来たん」とおしゃべりが始まる。地元の人との憩いの場であり、国際交流の場にもなっている。

広島のお好み焼きの歩み

明治・大正時代 東京の洋食屋台がお好み焼きが流行し、全国に波及。

昭和初期 広島で小麦粉生地になぎや紅ショウガをのせ、ウスターソースをかけた一銭洋食が子どもたちに人気に。

終戦直後 屋台に一銭洋食の流れをくむお好み焼きが登場。

1952年 オタフクソースがお好み焼き用ウスターソースを発売。広島市中心部の屋台が盛況。

50年代後半～60年代 卵やそば入りなど具材が増え、現在のお好み焼きの原型ができる。住宅の一部を改装した店が相次ぎ開業。

75年 広島東洋カープのセリーグ初優勝。テレビ中継などで広島のお好み焼きが話題に。

90年代 席数の多い大型店が増える。冷蔵冷凍の土産物が発売され、全国に広まる。

2000年代 鉄板居酒屋風の店が増える。宅配専門店ができる。

G7 アレンジ お好み焼き

お好み焼き店などでつくるお好み焼アカデミー（広島市西区）は参加国にちなんだアレンジ焼きを開発した。作り方は、アカデミーのホームページで公開中。家庭でもぜひお試しを。

イタリア

そばと豚ばら肉の代わりに、パスタとベーコンを。仕上げにカルボナーラソースをたっぷり



カナダ

デザートお好み焼き。生地にリンゴとバター、クリームチーズをのせ、メープルシロップでどうぞ



ドイツ

具にポテトサラダとソーセージ、ザワークラウトも加えて。マスタードが味のアクセント



イギリス

フィッシュアンドチップスをイメージ。肉玉そばに、ポテトと白身魚のフライでボリュームアップ



フランス

生地にそば粉を入れたガレット風。もやしとベーコン、キャベツを包み、目玉焼きをトッピング



ヒロシマ

原爆ドーム

サミット

広島人

宮島

お好み焼き

ロケ地ガイド

海外でも知られる
広島ロケの映画と撮影地

- ①「ドライブ・マイ・カー」(濱口竜介監督、2021年)
…中工場、グランドプリンスホテル広島、広島国際会議場など
- ②「朝が来る」(河瀬直美監督、20年)
…似島航路、グランドプリンスホテル広島など
- ③「エルネスト〜もう一人のゲバラ」(阪本順治監督、17年)
…平和記念公園、原爆ドーム、県庁、被爆電車など
- ④「この世界の片隅に」(片淵須直監督、16年)
…平和記念公園、江波など
- ⑤「夕凧の街 桜の国」(佐々部清監督、07年)
…基町護岸、寺町、平和記念公園など
- ⑥「父と暮せば」(黒木和雄監督、04年)
…原爆ドーム
- ⑦「ヒロシマ・モナムール」(アラン・レネ監督、1959年)
…本通り商店街、平和記念公園など

- ⑧大林宣彦監督の「尾道三部作」
「転校生」(1982年)「時をかける少女」(83年)
「さびしんぼう」(85年)
…尾道市
- ⑨「裸の島」(新藤兼人監督、60年)
…三原市沖の宿禰(すくね)島
- ⑩「東京物語」(小津安二郎監督、53年)
…尾道市

映画でたどる
あの街この街

西崎智子さん

広島フィルム・コミッション

傷ついた主人公の再生と広島の復興が重なる。

古い作品ですが、アラン・レネ監督の「ヒロシマ・モナムール」(1959年、邦題「二十四時間の情事」)も外せません。原爆で家族を失った日本人男性と、戦争で心に深い傷を負ったフランス人女性、戦後が織りなすドラマ。広島市中心部の本通り商店街を歩くエマニエル・リヴァを移動カメラで追いかけていくシーンが心に残ります。

どれも広島市の宝物です。国内外から初めて訪れた人には、今では見られない広島市の風景、時代の息遣いを感じ取る手掛かりとなります。広島に住む人々にも、感性の鋭い映画監督たちが切り取った映像は、見慣れた風景のもう一つの表情を見せてくれます。珠玉の映画に触れ、ロケ地を巡って広島を再発見してみてください。

アニメ映画の「この世界の片隅に」(16年、片淵須直監督)も国内外で注目され、いま多くのファンが舞台となった広島を訪ねています。平和記念公園(中区)の一角に昔は街があり、人の営みがあった。片淵監督たちが原爆投下前を知る人々から聞き取りを重ね、失われた情景を丁寧に描いたことで、多くの人の心を捉えています。

いま、世界でも知られる広島ロケの映画といえば、2022年の米アカデミー賞国際長編映画賞に輝いた「ドライブ・マイ・カー」(濱口竜介監督)です。主なシーンが撮影された広島と物語が共鳴した映画になっています。

広島ロケの決め手になったのは広島市の「ごみ処理場」中工場(中区南吉島)。ニューヨーク近代美術館(MOMA)の設計でも知られる世界的な建築家、谷口吉生さんが平和と創造のまちをテーマにデザインした美術館のような工場です。原爆ドームと原爆慰霊碑を結ぶ「平和の軸線」の延長線上にあり、軸線を遮らないように工場内に吹き抜けの空間が設けられています。濱口監督は物語の重要な場面でのこのエピソードをヒロインに語らせ、心の傷を抱える主人公の男性の再生と広島の復興を重ね合わせています。

アニメ映画の「この世界の片隅に」(16年、片淵須直監督)も国内外で注目され、いま多くのファンが舞台となった広島を訪ねています。平和記念公園(中区)の一角に昔は街があり、人の営みがあった。片淵監督たちが原爆投下前を知る人々から聞き取りを重ね、失われた情景を丁寧に描いたことで、多くの人の心を捉えています。

広島は多くの優れた映画の舞台となっています。広島フィルム・コミッション(広島市中区)の西崎智子さん(57)が薦める広島ロケの必見作品を紹介します。(聞き手は馬場洋太)



広島市の爆心地 街並み復元図

史上初の原爆が1945年8月6日に投下され、爆心地一帯となった現在の平和記念公園に眠る街並みを、97年5月から2000年6月にかけて遺族・旧住民の協力を得て復元。居住や建物疎開

(強制立ち退き)、移転を確認できた世帯・事業所を明記した。家屋配置は広島市による27年の「市街家屋図」(国立公文書館所蔵)などを参照。店舗名は一部、42年の広島電話番号簿に基づく。

